

声がれにご注意を

風邪をひくと時々声がかれることがあります。声がれは「のど仏」（喉頭）の声帯に何らかの病変がある状態で起こります。風邪ひきの際に起こる声がれは、急性の声帯炎によるもので、風邪症状の軽快とともに改善し心配することはありません。

ただ、数週間も持続する声がれには注意が必要です。大変な病気が原因となっていることもあります。

声がれには、大きく分けて「かすれ声」、「ガラガラ声」があります。

「かすれ声」の多くは、声を出すときに息が漏れている状態です。原因の多くは、声帯ポリープ（声帯結節）によるものや、声帯の「やせ」によるものです。声帯の「やせ」の多くは加齢変化で起こります。

注意が必要なのは、まれに声帯の麻痺（まひ）が原因で、「かすれ声」が起こることがあることです。声帯を動かす神経は、複雑な走行をします。心臓の近くの大動脈の病気や、食道がん・肺がん・甲状腺がんなどが進行すると、その神経を傷害し「かすれ声」が起こります。

「ガラガラ声」は、声帯の病変によりその振動が変化し起こります。例えば喫煙者のポリープ様声帯、これは慢性の声帯炎によるものです。

また喫煙者に注意が必要なのは、声帯にがんができる喉頭がんです。声帯のがんも「ガラガラ声」になることがあります。また、甲状腺の機能異常で声帯にむくみが生じて「ガラガラ声」になることもあります。

持続する声がれは、なるべく早く耳鼻科咽喉科への受診をお勧めします。

令和3年3月

箕山 学